



たけはらのひ

たけはらでのびる



2024.12

vol. 11

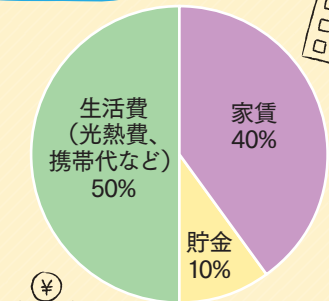


竹原での暮らし

大阪では、仕事の行き帰りはものすごい人で、自分のワナールームだけが、唯一、落ち着ける場所でした。今は仕事後の帰り道も心地よく、ストレスフリーです。竹原は瀬戸内海を満喫するのにぴったりの場所で、熱い意思を持った人たちがたくさん集い、ポテンシャルの高いまち。私は「合わない」と思ったらすぐ引っ越してしまいたくなる性格ですが、竹原はずっと住んでいきたいですね。中でも、高崎町の洞門周辺は、お気に入りの場所です。



家計グラフ



数井 直子さんが働く 一般社団法人竹原観光まちづくり機構とは

- 事業所名 / 一般社団法人竹原観光まちづくり機構
- 設立 / 令和4年12月7日
- 所在地 / 竹原市中央3丁目7-1
- 代表者 / 代表理事 今榮 敏彦
- 従業員数 / 11名 (うち正社員7名、非正社員※4名)
※パート・契約社員等
- 男女比 / 約7:4
- 平均年齢 / 約45歳
- 業種 / 観光まちづくり業
- 事業内容 / まちづくり事業、観光推進事業
移住促進事業、ふるさと納税事業
- 求人職種 / 事務職
- 休日休暇 / 年間120日
年末年始休暇、夏期休暇
慶弔特別休暇、育児・介護休暇
- 福利厚生 / 制服支給、交通費支給
扶養手当、資格手当
- HPリンク / <https://note.com/takeharadm>

■わが社の魅力 /
竹原市役所・商工会議所・観光協会により設立された弊社では、「竹原市の観光まちづくりのかじ取り役」として竹原市の観光分野における幅広い業務を行うことができます。



PROFILE

数井 直子 さん

Naoko Kazui

- 出身地 / 北海道
- 勤務先 / 一般社団法人
竹原観光まちづくり機構
- 入社年 / 2024年4月
- 趣味 / カフェ巡り

瀬戸内海に憧れて
竹原に移住。
カフェ開業を目標に
人のご縁を結び続ける。



Point

01 入社のきっかけは？

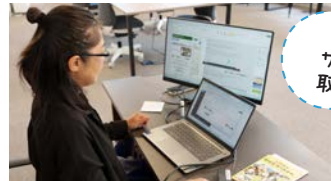


大阪で正社員として勤務し、休日には香川県の小豆島や直島などを訪れ「瀬戸内海っていいな」と感じていました。数年前から移住を考えていたのですが、あるとき、SNSで「竹原市移住体験ツアー」を見つけたんです。参加してみると、瀬戸内海も近いし、人が優しい。すぐに気に入りました。主催の一般社団法人竹原観光まちづくり機構の皆さんに、仕事や生活基盤について親身に相談に乗っていただき、竹原への移住と就職を決意しました。

Point

02 どんな仕事をしていますか？

竹原市で初となる、本格的な coworking space「SOLFIL」の立ち上げから関わらせていただき、現在受付業務全般を担当しています。清掃、備品の補充、ときには撮影業務のお手伝いなども担います。また、既存のWEBサイトに「移住定住サポートセンター」を組み込むよう改修しているところで、皆さんにフォローしてもらいながら頑張っています。今後は、移住者である経験を生かし、移住定住業務にも深く関わっていきたくと考えています。



移住定住サポートセンターに取り組んでいます

Point

03 どんなことにやりがいを感じますか？



「SOLFIL」で仕事をしていると、竹原をよくするために、年齢など関係なく、頭をフル回転して頑張っている人たちにたくさん出会います。皆さまに刺激をもらう

毎日です。移住定住を考えたとき、「竹原市」ではなかなか検索してもらえません。「広島県」の次に、いかに「竹原市」を候補地として検索してもらえるかが課題と考えます。「竹原市はまだまだこれから！今こそ移住のタイミング！」と伝えていく仕事にやりがいを感じています。

Point

04 自分の成長を感じるときは？



こちらでの仕事は初めての経験ゆえ、全てが学びです。移住者から竹原を紹介する立場となり、「どうやってアピールしていくか」をずっと考えています。分かりやすく魅力を伝えていく方法を模索する毎日が、成長につながっていると実感しています。「起業したい」「仲間と協業したい」という人たちのつながりの場となるよう、適切な声掛けをすることも大切。誰かのお役に立てる存在でありたいと思案する日々に、少しずつ成長を感じています。

Point

05 今後の目標や夢を教えてください。

現在、勤務のかたわら、「竹原市内でカフェを開く」「自家焙煎コーヒーを提供する」という夢に向けて、事業計画書を作成中。職場の皆さんに応援してもらって、商工会議所さんにも物件探しでお力添えをいただき、竹原市内の飲食店経営者さんにもアドバイスをもらっています。カフェ経営が軌道に乗ったら、コーヒーイベントなどに出席し、「竹原から来た」とPRし、竹原へ足を運んでもらうきっかけになれば最高です。



一般社団法人竹原観光まちづくり機構は、こんな職場です！



雰囲気
親しみやすく、分からないことは何でも聞きやすい雰囲気。20代～40代を中心に、60代まで、多彩な経験を持つ、幅広い年代のスタッフがいます。

待遇
竹原で十分暮らしていける給与をいただいています。休日は年間120日。年末年始休暇、夏期休暇、慶弔特別休暇、育児・介護休暇があります。

休日
「SOLFIL」は土日オープンしていますので、社員、パート、アルバイトが交代で勤務しています。シフトを調整すれば休日の取得が可能で、取りにくいということもありません。

福利厚生
制服支給、交通費支給、扶養手当、資格手当

私の脳内

仕事
「SOLFIL」の業務など初めてのことがばり。仕事に100%打ち込んでいます。



プライベート
カフェのオープンに向けて必要なものを書き出すなど、創業に関すること100%。



事業課長 内藤 隆久さん

就活生へ
一般社団法人竹原観光まちづくり機構は、立ち上がったばかりの新しい組織です。まずは存在を広く知ってもらうために、幅広い世代の、さまざまな経験や魅力を持っている人に、仲間になっていただきたい。我々は、事業者や創業希望者を支え、応援する伴走者。抱えておられる現状や困りごと、求めていることに耳を傾け、しっかり話を聞いて理解できる人を求めています。各専門家や組織と連携しながら、一緒にまちを盛り上げていきませんか。

私の一日

- 06:30 起床
- 08:10 コーヒーをハンドドリップで淹れる練習後、家を出る
- 08:20 到着
- 08:30～12:00 建物前の清掃やドリンクのセット、受付の準備。
席に座って作業をしながら、利用者の受付業務にあたる。
- 12:00～13:00 外へ食事に出掛ける。飲食店にあいさつをするのも仕事の一つ。
- 13:00～17:30 受付業務の他、社員の仕事の手伝いや、買い物、支払い、撮影の助手などを随時行う。定時に退勤。
- 18:00 買い物などをして帰宅、入浴、食事など。カフェオープンに向けた準備も。